

## 結核について

### 正しい知識を持つことが、結核根絶への第一歩

結核根絶への取組を進めて行くためには、都民、医療関係者及び行政が、結核についての正しい基礎知識を持ち、それに基づいて、BCG接種や健康診断などの予防対策が実施され、また適正な医療が確保されることが必要です。

そこで、この章では、まず結核という病気について考えます。

## 1 「結核」とは

結核は、患者の体の中の結核菌（\*）が、咳やくしゃみで、空気中に飛び出し、それを周囲の人が肺の中に吸い込むことにより感染します。

### \* 結核菌の発見

結核菌は、1882年に、ドイツの細菌学者ロベルト・コッホにより発見されました。

結核菌は、極めて丈夫な細菌で、乾燥に強い性質を持ちます。このため、咳などのしぶき（飛沫）の周りの水が乾燥・蒸発して、中心部だけとなった状態（飛沫核）でも生き続けます。

一旦、飛沫核となると、結核菌はすぐには、床や地表には落下せず、空気中に30分以上も漂い、空気の流れに乗って広がります。空気で広がり、感染するので、空気感染（飛沫核感染）といえます。

しかし、屋外に出て、拡散したり、紫外線に当たったりすると、急速に感染力を失います。

結核に感染した人のうち、発病するのは10人に1～2人です。

そして、結核が、他の人に“うつる”のは、この発病した人が重症化し、咳や痰<sup>たん</sup>などにより、結核菌が体の外に出る場合です。

結核は、咳、痰、発熱などの症状で始まります。そのほか、痰に血が混じる、食欲が減る、体重が減る、寝汗をかく、微熱が続くなどの症状もあります。

2週間以上、咳が続いたら、病院などで受診しましょう。長引く咳は、要注意です。

感染してから、2年以内に発病することがほとんどですが、その期間を過ぎても、結核菌は体内でいわば「冬眠状態」となって生き続け、免疫力が落ちると、たとえ何十年後でも、発病することがあります。

高齢者に結核発病が多くみられるのは、こうした理由によるものです。

結核の治療期間は、通常6か月から1年程度です。また、発病し、かつ感染性を有する状態になった人でも、適切な治療を行えば、2週間程度でその感染性は、ほとんどなくなります。

ここで大切なのは、薬を飲み始めてしばらくすると、咳などの症状は良くなりますが、自分の判断で服薬を止めてしまうと、症状は悪化し、また薬が効かなくなることもあります。薬は決められた期間、確実に飲み続けなければなりません。

## 2 結核は、いま…

我が国において、2004年(平成16年)に、新たに結核患者として登録された人は、29,736人、り患率(\*)は、23.3となっています。

また、結核による死亡者数は、2,328人です。

### \* り患率について

り患率とは、一般に、一年間に発病した患者数を人口10万人対比で表したものです。

結核に関する統計上は、新登録率ともよばれ、当該年内に登録された患者を10月1日現在の総人口で除したものを用いています。

結核が、「国民病」として恐れられ、その対策として、現在の結核予防法が制定された1951年(昭和26年)には、新登録患者数は、590,662人、り患率は、698.4、結核による死亡者数は、93,307人となっていましたので、我が国における結核対策は、医療関係者や研究機関の努力とも相まって、めざましい成果を挙げてきたと言えます。

しかし、それでも、現在の我が国の状況は、先進諸国と比べると、次表のとおり、著しく遅れています。

### 主要国の結核り患率

(人口10万人当たり)

|       | 日 本   | ア メ リ カ | イ ギ リ ス | フ ラ ン ス |
|-------|-------|---------|---------|---------|
| り 患 率 | 23.3  | 5.3     | 10.8    | 9.5     |
| 年 次   | 2004年 | 2003年   | 2003年   | 2003年   |

また、世界全体の動向についてですが、世界保健機関(WHO)は、1993年に、結核非常事態宣言を出したほか、1996年の報告書では、「克服したと思い込んでいた結核が、新たなどう猛さで甦ってきた」として、再興感染症としての結核に警鐘を鳴らしています。

我が国における結核の特徴として、り患率は改善しているが、その減少率は低下していること、特に20~30歳代の減少率が際立って低いことです。

さらに、結核のり患率の高い地域が、次表のように、大都市に偏り始めていることも重要です。

### 結核り患率の高い都道府県の推移

|    | 1983年     | 1993年     | 2004年 |
|----|-----------|-----------|-------|
| 1位 | 香川県       | 大阪府       | 大阪府   |
| 2位 | 高知県       | 高知県       | 東京都   |
| 3位 | 和歌山県      | 和歌山県      | 兵庫県   |
|    | (38位 東京都) | (25位 東京都) |       |

特に、新登録患者数では、東京都（12.7%）と大阪府（12.2%）で、全国  
の約4分の1を占め、更に次表のとおり、大都市とその周辺が上位を占めています。

### 全国新登録患者の上位を占める自治体及びそのり患率の状況(2004年)

|                        | 新登録患者<br>(人)            | り患率<br>(人口10万人当たり)       |
|------------------------|-------------------------|--------------------------|
| 東京都<br>(特別区)           | 3,764<br>(2,915)        | 30.2<br>(34.7)           |
| 大阪府<br>(大阪市)           | 3,627<br>(1,627)        | 41.2<br>(61.8)           |
| 神奈川県<br>(横浜市)<br>(川崎市) | 1,941<br>(906)<br>(363) | 22.2<br>(25.5)<br>(27.8) |
| 愛知県<br>(名古屋市)          | 1,811<br>(795)          | 25.2<br>(36.1)           |
| 兵庫県<br>(神戸市)           | 1,623<br>(548)          | 29.0<br>(36.1)           |
| 国                      | 29,736                  | 23.3                     |

備考：( )内の数値  
は、内数である。